

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成 24 年 7 月 18 日(水)～20 日(金)

■岩手県花巻市「宮沢賢治のまちづくりについて」



花巻市では、今年 4 月に賢治まちづくり課を設置し、宮沢賢治を生かしたまちづくりを推進することによって、交流人口の拡大、市街地の活性化、産業・芸術文化の振興を図っていた。

施設面では、宮沢賢治記念館、イーハトーブ館、童話村などを設置したが、施設の老朽化や入場者数の減少が課題となっていた。また、「ゆかりの地」を再発見し、モニュメントを設置するなどして、市内

全域において「賢治さんの香りあふれるまち」を実現することが今後の課題となっていた。

安城市ゆかりの童話作家・新美南吉をまちづくりに生かす場合においても、目的を明確にして、効果を検証するとともに、市民に理解されやすいものとする必要があると考える。

■宮城県石巻市「東日本大震災における被害状況と現状について」

石巻市は、東日本大震災による死者・行方不明者が 3,000 人を超え、市町村別では最も被害の大きい自治体となった。がれきは、市内 23 カ所の一時仮置き場に集積され、その量は約 616 万トンであり、これは震災前の廃棄物量の約 106 年分に相当する。仮焼却施設 5 基で 1 日 1,500 トン処理できたとしても 11 年かかる見込みである。



本市から派遣されている職員によると、沿岸地域から高台への集団移転に伴う用地交渉の際、土地所有者がどこにいるか分からず、一人ひとり居場所を確認して承認してもらうことが大変困難な状況とのことだった。石巻市では、従事する職員が絶対的に不足しているのが現状であり、いち早い復興のために、用地交渉のノウハウを持った職員の増員が早急に求められている。

■東京都府中市「ルミエール府中（市民会館・中央図書館）について」



ルミエール府中は、老朽化した市民会館と中央図書館の建て替えに当たり、両施設の複合施設として建設された。運用面では、直営と P F I に基づく委託を併用し、役割分担を明確にした上で効率的な運営に努めていた。市が自ら実施する場合と、P F I 方式により実施する場合の定量的評価結果は、P F I 方式による実施の方が約 7%削減されるとのことだった。

本市でも、中心市街地拠点整備事業で公共施設と民間施設の建設予定があることから、事業手法の考え方、施設内容、役割分担、効果等、現時点で最大値を求めるとともに、将来に悔いのない整備水準に向け情報収集のアンテナを張り、それらが反映した事業計画を市民に積極的に P R すべきと考える。